

# 5 エサの作り方



## 1 バラケ・ダンゴエサの作り方

(使用エサ=「パウダーベイトヘラ」)



「パウダーベイトヘラ」、エサボウル2個、計量カップ2個（エサ用と水用）、タオルを用意する。



計量カップすりきりでエサを5杯エサボウルに入れ、そこに同じ大きさの計量カップで水をすりきり1杯入れる。



エサを軽量カップで量るときはすりきりで、少なかつたり、山盛りはNG。



エサをかき混ぜる時は指を開いて立てるようにする。



均一に混ぜたらできあがり。ムラがあったり、粉の部分が残っているのはNG。

へら釣りや多用される両ダンゴやセット釣りのバラケエサは麩に水を注いでかき混ぜて作ります。基本は粉5に水1で、ポイントは水を注いだら均一に混ぜること。そして、そのエサを丸めやすい状態にするために、押し練りをすることです。

## 2 バラケ・ダンゴエサの丸め方

できあがったエサの半分ぐらいを手の甲側で押して固めます（この動作を押し練りという）。押し練りしたエサを適量をつまみ、両手の指を使って形を整えるか、手のヒラに乗せてダンゴを作るように丸めます。慣れてくれば、片方の指だけでも丸められるようになります。



丸めやすい硬さになるまで、何度か押し練りをする。



## 3 エサの付け方

丸めたエサをハリに付けます。エサ付け方法はいくつかありますが、まずは慣れが必要です。ここでは、1番簡単で確実なエサの上からハリを刺して押し込む方法を紹介しします。コツは、ハリがエサの真ん中にくるようにすることです。

### 押し込む



丸めたエサの上からハリを刺し込む。



飛び出ているハリを押し込む。



押し込んだ部分を包むように指で数回押さえる。



エサ全体の形を整える。



ハリスとエサがまっすぐになる。また、ハリスを持ってエサを振ったときに落ちなければOK。

## 4 エサの付け方の悪い例

ハリにエサを付ける時の最大のポイントはハリからエサがとれないようにすること。エサからハリが飛び出していたり、エサの中心からハリがずれていたりととれやすくなりますので注意しましょう。



# 5 エサの作り方

## 5 グルテンエサの作り方

(使用エサ=「凄グル」)

グルテンエサとは、グルテンとフ레이크状のマッシュポテトをブレンドした製品で、へら鮎の活性が落ちる晩秋～春先のほか、新べらねらいで使うエサです。2つのハリ両方ともにグルテンを付ける両

グルテン、下バリだけに付けるグルテンセットを使います。作る時のポイントは、水を注いだあとにしっかり混ぜること。少し固まりだしてもよく混ぜることで均一の仕上がりとなります。



1 軽量カップにすりきりでエサを1杯入れる。



2 同じ大きさの計量カップで水をすりきり1杯入れる。



3 親指、人差し指、中指の3本でよくかき混ぜる。



充分に混ぜたらボウルのはしに寄せて置く。

水を吸っていない部分があると仕上がりにムラがあるのでNG。

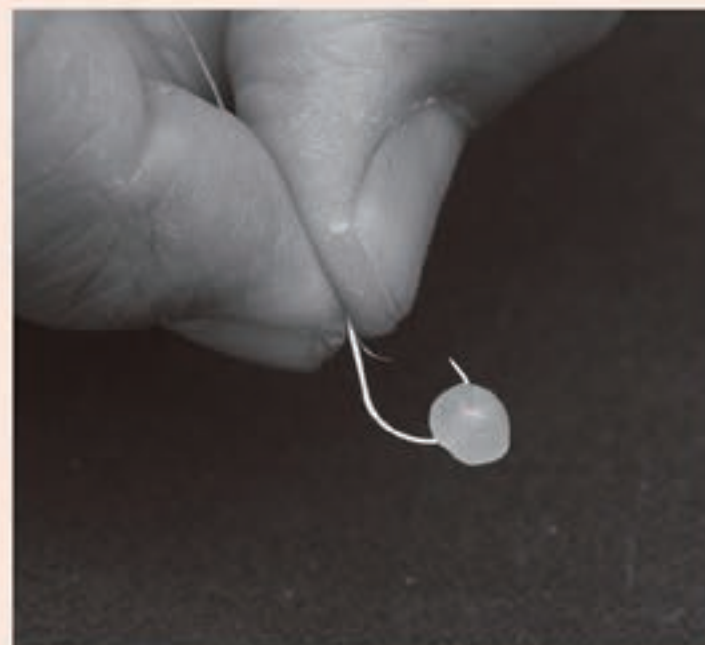


5 しばらく放置したらひっくり返す。ひっくり返したら、はしからつまんで丸めて使う。

※グルテンエサは種類によって水量が変わります。

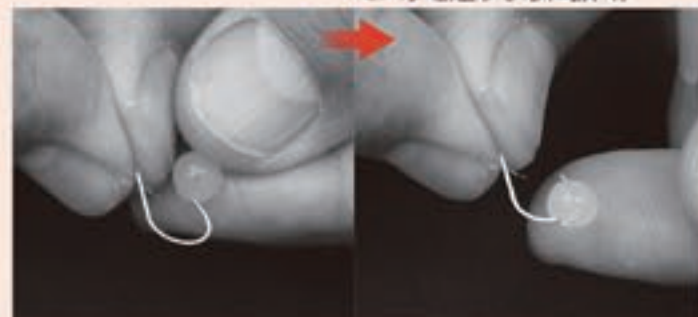
## 6 「カ玉」の付け方

「カ玉」とは、ウドンのセット釣りで使うくわせエサのことです。小さい丸い固形物で、そのままハリに刺して使えるので便利です。ハリを刺す時は、なるべくハリから抜けないように、丸い「カ玉」の中心をとおし、ハリ先を貫くように外へ出すことがポイントです。

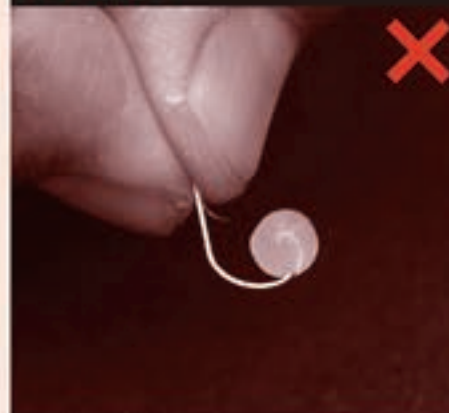


「カ玉」はハリに刺すだけで使えるくわせエサなので非常に便利だ。

片方の指で「カ玉」をつまみ、もう一方の指でハリをつまむ。「カ玉」の中心にハリ先を刺してハリを通すように抜く。



悪い例



ハリ先が「カ玉」から飛び出していない。ハリ掛かりが悪くバラシにつながりやすい。



ハリが「カ玉」の中心を通過していない。「カ玉」がハリから取れやすくなってしまう。